

第54回日本創傷治癒学会を開催するにあたって

武蔵野徳洲会病院特命副院長

第54回日本創傷治癒学会会長

木山 輝郎

2024年12月5日、6日に東京都千代田区の一橋大学一橋講堂において第54回日本創傷治癒学会を開催させていただくことになりました。1971年に第1回研究会が開催され、恩師である日本医科大学第一外科恩田昌彦教授、病理学教室浅野伍朗教授、そして直接ご指導いただいた本学会名誉理事長徳永昭教授が開催した本学術集会をお世話できますことを大変光栄に思っています。

創傷治癒との出会いは大学院での胃がんにおける上皮増殖因子 EGF でした。その後、米国 Johns Hopkins 大学外科に留学し、創傷治癒と栄養経路の研究を行いました。消化管を用いるほうが静脈栄養よりも創傷治癒が促進することを示すことができ、本学会の奨励賞を頂きました。しかし、そのメカニズムは現在も明らかではありません。先日、腸内細菌の産生する H₂ ガスが細胞内の酸化還元状態を変化させる可能性を示すことができ、消化管利用と創傷治癒促進との糸口を見つげられたと考えています。そこで、メインテーマを「New innovations in wound healing：創傷治癒の新たなイノベーションを求めて」としました。

近年、外科手術では開腹手術から低侵襲である腹腔鏡、ロボット手術へ移行し、手縫い吻合から器械吻合へ、器械のステイプルも2列から3列へ、組織補強のためのシートなど技術革新が起こり、臨床現場で導入されています。慢性創傷に関しても持続吸引陰圧療法、創傷被覆材、除圧ベッド、栄養補助食品など治癒を改善し、瘢痕形成を減らすための革新的なアプローチが生まれています。基礎研究から臨床応用、そして社会実装へと本学会のカバーする範囲が広がってきました。創傷治癒に関する全ての研究者が集うことができるように準備を進めたいと考えています。更に特別講演をお二人の先生にお願いしました。京都大学医学部長 岩井一宏教授から「細胞内鉄動態、フェロトシスの解析」を、また徳島大学宇宙栄養研究センター長 二川健教授から「無重力や寝たきりによる筋萎縮の栄養学的治療法の開発」をお話しいたします。細胞内と無重力という新たな視点から創傷治癒を考える機会を頂ける有意義な機会になると楽しみにしています。

学術集会会場は東京駅にほど近いお堀に面した一橋大学一橋講堂としました。会期の12月初めは東京でも紅葉が美しい時期で、丸の内や銀座も近く街歩きや美味しいものを楽しむことができます。学会での熱気あふれる議論につかれた時はぜひ素敵な街を散策していただければと思います。

皆様のご参加をお待ち申し上げます。



NEWS
LETTER

日本創傷治癒学会
2024.05
No.141

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学

医学部形成外科学教室内

tel.03-3351-4774

fax.03-3352-1054

e-mail : info@jswh.com

URL : <https://www.jswh.com>

The 54th Annual Meeting of Japanese Society for Wound Healing
第54回日本創傷治癒学会
New innovations in wound healing
創傷治癒の新たなイノベーションを求めて

会期 2024年12月5日(木)・6日(金)
会場 一橋講堂(学術総合センター)
〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

会長 木山輝郎
武蔵野徳洲会病院 特命副院長

演題募集期間 2024年5月22日(水)~7月3日(水)
<http://www.congre.co.jp/jswh54/>

第54回 日本創傷治癒学会 ～創傷治癒の新たなイノベーションを求めて～

WRRに会員の論文が掲載されました

会員の論文が Wound Repair and Regeneration の Volume32 Issue No.1 に掲載されました。
論文名、会員の著者は下記の通りです。

投稿規程に関しましては、Wiley Online Libraryの本ジャーナルホームページの機関誌概要下にある濃緑色のナビゲーションバーより、<CONTRIBUTE> ⇒ <Author Guidelines> と進んでいただくか、以下のURLへアクセスして入手してください。

<https://onlinelibrary.wiley.com/page/journal/1524475x/homepage/forauthors.html>

なお、投稿方法は、ホームページからのオンライン投稿(要ログイン)となっております。

“Evaluating the cost-effectiveness of diabetic foot ulcer management by wound care specialists in Indonesia”, (Wound Repair and Regeneration, 32:6, P.80-89)

大江 真琴 先生 (金沢大学 医薬保健研究域保健学系)

真田 弘美 先生 (石川県立看護大学)



漢方製剤にとって「良質」とは何か。その答えのひとつが「均質」である、とツムラは考えます。自然由来がゆえに、ひとつひとつに個性がある生薬。漢方製剤にとって、その成分のばらつきを抑え、一定に保つことが「良質」である。そう考える私たちは、栽培から製造にいたるすべてのプロセスで、自然由来の成分のばらつきを抑える技術を追求。これからもあるべき「ツムラ品質」を進化させ続けます。現代を生きる人々の健やかな毎日のために。自然と健康を科学する、漢方のツムラです。

良質。均質。ツムラ品質。



株式会社ツムラ <https://www.tsumura.co.jp/> 資料請求・お問合せは、お客様相談窓口まで。

医療関係者の皆様 tel.0120-329-970 患者様・一般のお客様 tel.0120-329-930 受付時間 9:00~17:30(土・日・祝日は除く) 2021年4月制作 (審)